

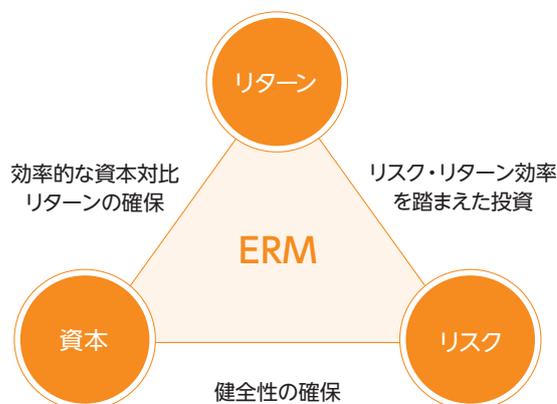
財務・資本政策

ERMの考え方

「スミセイ中期経営計画2025」では、「ERM^{*}経営の推進」を、当社のサステナビリティ重要項目（マテリアリティ）の一つである「サステナビリティを支える経営体制」に対する取組項目の一つと位置づけています。

^{*}Enterprise Risk Managementの略

具体的には、ERM経営（およびリスク管理）の推進に取り組み、リターン・リスク・資本についてより一体的な管理を進めることで、事業の持続可能性を確保していくとともに、お客さま（社員）への安定した配当還元を推進していきます。



ERMの経営への活用

上記ERMの考え方に基づき、「資本を有効活用して、どのようなリスクをどの程度のリスク量まで取ってリターンを獲得するのか」という経営上のリスク選好（定性面・定量面）を明確化した「リスクアペタイト・ステートメント」を策定したうえで、「リスク選好と統合的な経営計画の

策定（Plan）→経営施策の執行（Do）→計画の進捗状況のモニタリング（Check）→必要に応じた計画等の見直し（Action）」という「PDCAサイクル」を通じて、ERMを活用した経営をさらに推進していきます。

経営のベースとなる普遍的なリスクに対する姿勢（長期的なリスク選好）

・住友生命グループは、主に、保険引受・資産運用においてリスクテイクを行い、リスクを適切にコントロールします。

中期経営計画期間（2023～2025）の環境に対応したリスク選好（中期的なリスク選好）

【リスクアペタイト・ステートメント】

- ・保険販売によるリスクテイクにより安定的な収益確保と資本の充実を図り、資産運用や海外事業、他社との協業による価値創造等での新たなリスクテイクに資本を有効活用することで、グループ企業価値の持続的向上を図ります。
- ・市場環境悪化時等においても事業継続が可能となるリスクと資本のバランスを遵守しつつ、資本を有効活用し効率的に企業価値向上を図ります。

リスク選好に基づく「スミセイ中期経営計画2025」を策定

会社全体の経営計画

資本を有効活用するために、リスク・リターン等の検証を実施の上、資本配賦を決定・実行

スミセイライフデザイナー
（営業職員）

金融機関等代理店
・保険ショップ

資産運用

海外事業

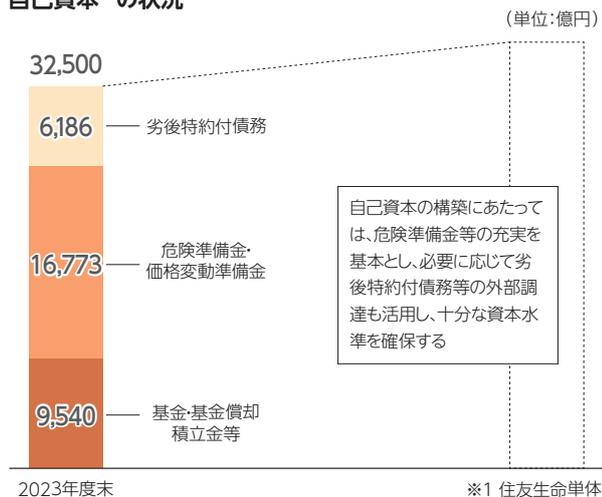
- ERM経営の推進により各事業の持続可能性を確保
- 住友生命グループの企業価値の持続的向上を通じてお客さまへの安定した配当還元を推進

健全性の確保に向けた取組み

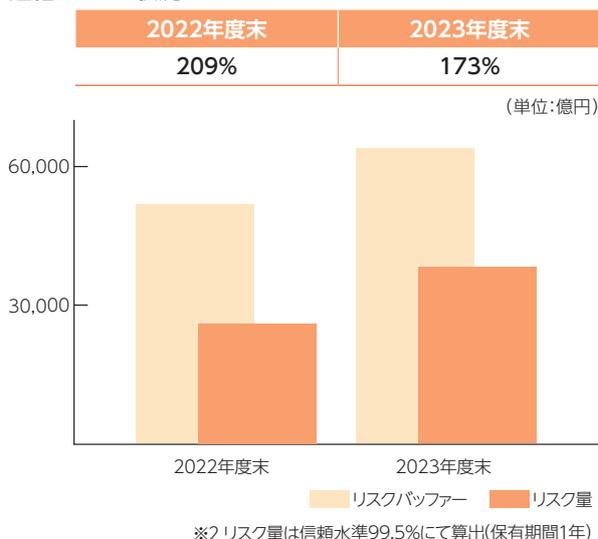
当社は、ご契約いただいたお客さまに将来にわたって保険金等を確実にお支払いするために、財務の健全性の確保に向けて、貸借対照表の純資産の部に計上されている基金・基金償却積立金・価格変動積立金に加え、負債の部に計上されている危険準備金・価格変動準備金および劣後特約付債務などをあわせた自己資本の充実を図るとともに、適切なリスクコントロールに取り組んでいます。

2023年度末の連結ESR(経済価値ベースのソルベンシー比率)は、適切なリスクコントロールのもとでの株式や外国債券の積増しに伴う資産運用リスクの増加等により、173%(前年度末比▲36pt)となりましたが、リスクに対して十分なリスクバッファーを有しています。

自己資本^{*1}の状況



連結ESR^{*2}の状況



社員配当について

基本的な考え方

- 単年度および将来の収益状況や自己資本の水準等を踏まえ安定的に還元を行うこと
- 自己資本によるリスク対応力強化とご契約者さまへの還元の充実についてのバランスをとること

2023年度決算に基づく社員配当

当社では、上記の基本的な考え方を踏まえたうえで、継続的に増配を実施しています。

2023年度決算に基づく社員配当については、基本的な考え方を踏まえて、一部の医療保険および生前給付特約の長期継続配当等を増配しました。

配当還元割合

当社では毎年の剰余から配当準備金への繰入れおよび危険準備金等への繰入れを行っています。この毎年の剰余のうち配当準備金繰入額が占める割合が「配当還元割合」です。

なお、当社では安定的な配当還元を行っています。外部環境の影響等により毎年の剰余の水準は変動するため、配当還元割合は必ずしも安定的には推移しません。

